

熊本地震を振りかえり 明日への備えを考える

グランガーデン熊本 かたらん会

平成28年4月14日と16日 熊本をかつてない規模の地震がおそいました。

熊本各地において、甚大な被害が広がる中、グランガーデン熊本のご入居者さまにおかれましては、

8名の方々が軽いけがを負われましたが、幸いにして重傷者の方はいらっしゃいませんでした。

しかしながら、今なお続く余震は2000回以上を数え心の傷なども大きなものとなっています。

そうしたなか、この震災を今後の教訓としていくために、ご入居者の皆さまにお話を伺いました。



溝口 浩さま
(88歳)



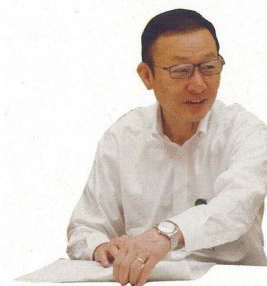
細井 幸子さま
(84歳)



田中 洋子さま
(85歳)



岡本 義幸さま
(84歳)



お話を伺った
グランガーデン熊本 支配人
松岡 祐二さん

今回の震災に際して、福島県の有料老人ホーム「いわきふるさとの楽園」よりお見舞いのお手紙と、寄せ書きが書かれた“おきあがりこぼし”が送られてきました。



特別寄稿



熊本地震後にご入居された 下田さまご夫妻

昨年12月の体験入居時に入居を申し込んだものの、地震発生後の6月入居となりました。ご入居者の皆さまに地震が発生した時のグランガーデン熊本の話をお聞きして、早くここに入居しておけばよかったと思いました。今は入居して本当に安心しています。

グッドライフ

キューデン・グッドライフがお届けする
アクティブシニアのための情報誌

Vol.12
特別号

ごあいさつ 1

熊本地震を振りかえり
明日への備えを考える 2

グッドライフの防災への取り組み 5

キューデン・グッドライフグループは、質の高いサービスをご提供し、皆さまに末永く安心してお住まいいただくことを目指しています。

皆さまには益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃よりキューデン・グッドライフグループの事業運営に格別なご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

冒頭の四行は、当情報誌の前号発行分に書かせていただいたサービス目標ですが、これが4月に発生した熊本地震で危機に晒されました。幸い、大きな怪我をされた方もなく、建物も外壁のタイルの損傷はあったものの、皆さまが居住されるのに支障となるような建物本体の被害はありませんでした。

そのような中で苦慮したのは、水と食料の確保、それとマンパワーでした。前震では無事だった水道が本震で断水してしまい、飲料水は福岡から運ぶと共に、トイレの洗浄水には大浴場の残り湯をバケツで運びました。食事についても、関係者の総力を結集することにより、一食も欠かすことなく提供することができました。

家具が転倒して割れた食器が散乱する皆さまの居室の片付けのお手伝い、水と食料のご提供にはかなりのマンパワーが必要でしたが、自宅が居住不能になったスタッフも含め、皆が懸命に働いてくれましたし、居室の片付けにはスタッフの家族も応援に駆け付けてくれました。

この非常時にご入居の皆さまの生活をまがりなりにも支え続けることができたことは、何にも替えがたい私共の誇りであり、この経験は貴重な財産となりました。

今後とも皆さまの安全と安心に万全を尽くす所存でございますので、一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。



(株)キューデン・グッドライフ
代表取締役社長
茂田 省吾